



自分を信じるということ

竹田 航基(諸口教室)

初めまして、諸口教室に在籍している竹田航基と申します。私はカイチで中学1年生から卒業までの3年間お世話になりました。中学校を卒業後、大手前高校を経て現在は同志社大学の文学部に在籍しています。大学では、オペラとミュージカルを中心にイギリス文学を幅広く勉強しています。さて、今年も月日があっという間に過ぎ去り12月となりました。受験生にとっては受験があつた2、3か月後に迫ってきましたね。諸口教室では授業がない日でも自習に来ている3年生が見受けられとても頼もしく感じています。その一方で、多くの受験生が受験に関して非常に不安を感じているのではないのでしょうか。では、そのような不安に打ち

勝つためにはどうすればいいのでしょうか。私は、志望校合格のために最も重要なことは、絶対に合格できると自分を信じ続けることだと思います。私自身、中学3年生のこの時期に五ツ木模試、文理学科講座などを受講している中で、周りの人達が仕上がり始めていい点数を残している中で自分はなかなか良い結果が出ずプレッシャーと焦りでとても不安になりました。その中でも勉強を頑張り続けられたのは、このまま勉強し続ければ自分の成績は絶対に上がると信じ続けられたからです。その後、勉強を積み重ねる中でだんだん成績が上向き始めてなんとか志望校に合格することができました。その経験から、自分のことを信じ続けることの重要性を感じました。逆に自分を信じられないと委縮して全力を出し切ることができなくなるのです。

良い結果が出ていない中で自分を信じるとい

うことは本当に難しいことだと思います。しかし、時間はかかるかもしれませんが自分を信じて勉強し続ければ必ず結果はついてきます。これから受験までもっと不安になることもあると思います。そんな時でも勉強し続ければ絶対に合格できると自分を信じ続けてあげてください。

自分の人生を振り返ってみても、受験は自分の人生の中で1、2を争うほど大変なものだったと感じます。それほど大変な受験と真正面から向き合っている皆さんは本当に素晴らしいと思います。これから約2、3か月が受験の正念場になります。自分を信じ続けて、もうこれ以上できないくらいの力で勉強に取り組んでください。皆さんが志望校に合格できるよう私も全力でサポートしていきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。



マナロのちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE マナロ 恭子(今福・関目教室)

母も読書で自分磨きを♡

6月に入って「今年も半分がもう過ぎた、早いね～」と言っていたのが昨日のように思えます。12月は私の推しのBTSがついに全員兵役へ行ってしまふし、来年から私は大殺界に突入。それで、少しでも「運」を味方につけようと、『1日1分開運ルーティン』という本を読みました。運がいい人が持っている波動はどんな人でも身につけることができる。毎日の小さな開運ルーティンを続けるだけでその波動を高めることができる、という本です。どんな内容か少しお話すると、「身口意」という仏教の言葉があり、これは「三業」という「人生に影響を与える3つの行い」のことを指します。



「口業」…言葉、口ぐせ。(例)人から助けてもらった時など、「スママセン」が口ぐせだと、「自分は非がある存在」「自分はいたらない存在」とい

うセルフイメージができあがり、結果としてそういう現実がたくさん見えてくるようになるので「スママセン」を「ありがとう」に変える。

「意業」…思考、意識。(例)楽しいことを分かち合ったり、誰かの問題解決のお手伝いをするなど、「目の前の人や周囲の人の喜びから考える。1日1分、自分には何が提供できるか考える。

他にも「なるほど!」と思うような習慣がたくさんあり、久しぶりにいっきに読んでしまう本に出会えました。普段、育児や家事、仕事に追われるお母さん達、そして毎日忙しいカイチの先生達にもぜひ読んでもらいたいです。

読書は前から好きでしたが、最近ではインスタで面白い本を紹介してくれるアカウントがたくさんあり、時間はないのに読みたい本がたくさんあって困っています。そんな本たちをここで何冊か紹介したいと思いますので気になる本があればぜひ読んでみてください。

| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>📖 やめる時間術</p> <p>24時間を自由に使えるすべての人へ</p> | <p>📖 心に響く小さな5つの物語</p> <p>私たちがこの物語を読み、涙が溢るまで読んでほしい。仲間と読書会をしよう。心が洗われた。心に残りました。必読 武田英子</p> | <p>📖 お金の大学</p> <p>毎月10分読書の時間があるという、ある建築会社のお仕事体験に参加した時に娘がもらってきました。縁の大切さや、生きていくうえで教訓になることがたくさんあり、小中学生にもおすすすめ。</p> | <p>📖 わたしの子</p> <p>自分と照らし合わせて共感してしまうことばかりで、育児中のママなら決してしまうことまちがいなし。今福第2教室に置いています。</p> |
|--|---|---|---|

- 12月12日(火)は面談日のため中学部は休講です。 ■12月16日(土)は中3生の実力診断テストです。
- 12月16日(土)は珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズ・小学部・かいち学童生対象のクリスマス会を実施します。
- 12月20日(水)・21日(木)は小学・中1・2診断テストを実施します。
- 珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズの冬休みは12月21日(木)～1月9日(火)です。
- 小学部・中学部の冬期講習会を12月22日(金)より実施いたします。詳しくは冬期講習の日程表をご確認ください。
- 12月29日(金)～1月4日(木)まで冬期休業いたします。
- 1月10日(水)より通常授業がスタートです。珠算・パスカルキッズ・トーキングキッズはこの日が新年の授業始めとなります。

カイチからのお知らせ

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター



| | |
|---|--|
| 【本 部】 城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201 TEL.06-6939-0008 | 【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000 |
| 【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662 | 【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117 |
| 【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984 | 【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467 |
| 【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722 | 【カイチ予備校】 城東区今福西 1-10-17 TEL.06-6935-2220 |
| 【高殿教室】 城東区成育 5-22-10-2F TEL.06-6786-1008 | 【万緑会】 天王寺区上本町 6-9-10-3F TEL.06-6772-5011 |
| 【エニグマ】 中央区谷町 9-4-5-3F TEL.06-6777-1563 | |



古市教室7連覇おめでとう!



高木 秀章(塾長)

先日12月2日に第19回オールカイチ珠算競技大会が実施されました。コロナのためこの2年間は教室毎や人数を絞って実施していましたが、通常通りの本格的な開催は4年ぶりとなりました。私達、講師も大会委員長の川西先生を中心に、打ち合わせを重ね、読み手の先生達はこの日に合わせて読み上げ算の練習をし、緊張感のある大会にしようと皆で尽力しました。

大会当日、私は今福教室の引率でしたが、電車の中もみんな緊張気味でした。鶴見緑地駅で古市・関目・高殿教室の生徒達と、たまたま合流し、いよいよ今から対決!という雰囲気になりました。

気になる大会結果は、教室対抗戦では古市教室の7連覇!やはり古市教室は強い。古市教室の皆さん本当におめでとうございます。内訳は小1今福、小2関目、小3古市、小4今福、小5古市、小6古市という結果でしたが、各教室が拮抗してきたと感じました。



▲カイチNo.1決定戦の一コマみんな集中しています

読み上げ算のカイチNo.1には7桁～18桁(百万～十京)10口を正解した高殿教室の鈴木萌生さん(なんと4年生)が、読み上げ暗算のカイチNo.1には3桁～6桁(百～十万)5口を正解した今福教室の奥野紗来さん、そしてプリント競技の最高得点賞は、関目教室の浅野志歩さんが獲得しました。



▲最高得点賞に輝いた関目教室浅野志歩さん。おめでとう!

今回、特に感じたのは高殿教室生の読み上げ算の上達です。まだ、参加者は少ないですが、決勝戦に残る生徒達が多く(学年優勝も2名、カイチNo.1も獲得)大会を大いに盛り上げてくれたと思います。それから、最高得点賞の浅野さんは6年生の読み上げ算の会場で見ましたが、指使いが素晴らしい「すごい子がいるな」と思いました。現在、カイチの読み上げ算レベルは高く、全国でも最難関レベルの7桁～18桁、百万から十京までの位違いで3年生以上が勝負しています。この時、ポイントになるのが位取りとそこから1の位までを置き切るスピードです。彼女は位取りして

から1の位までをおき切るスピードが抜群に早い。思わず動画に撮りましたが、それだけ力がある彼女が読み上げ算の部では3位になってしまうのですから、どれだけ難しいレベルで子供達が勝負しているかが理解できると思います。

この大会をする度に感じることは、「子供達は可能性の塊」ということです。優秀な仲間達が集まる大会の緊張感と彼らとの切磋琢磨の中で、練習以上の力を発揮する生徒達がいます。5年生の読み上げ算決勝戦。7桁～18桁読み上げ算10口。読み手の近久先生の読むスピードに「そんな速いのを正解できる生徒はいないだろう」と内心思いましたが、今津教室の板東志保さんは一発で正解。30年以上指導している私が驚きました。カイチNo.1の読み上げ暗算決勝での場面、3桁～6桁(百～十万)5口、今福教室の菅井奏佑君はなんと1違いで敗退。小学生達がこんな難しいレベルで戦えるすばらしさ。入賞できなくても、1年生、2年生の子供達の飛躍も目を見張るものがありました。目的意識があればたった3週間でもどんどん飛躍する。上手くなるのがうれしいから家でもどんどん練習する。そんな真剣な彼らは、子供の顔をしていません。落ち着いていてクールでどこか凛としています。そんな彼らの顔が大好きです。

私は子供達を教えるという仕事を32年間続けていますが、その中でも感じていることは、子供達それぞれの中に、落ち着いていてシャープなもう一人の彼らがいるということです。

私の仕事はそういうシャープな彼らをいかに引き出し、「こんなに素晴らしい」と本人達に示してあげることができるかだと考えています。今カイチでは受験生達の三者懇談会、冬期講習、そしてこれも4年ぶりに再開するクリスマス会の準備で大忙しです。昨日も、自習室を少しのつもりで覗くと、受験生の質問が途切れることなく続き、気が付くと夜中の11時になっていました。今の子供達は無気力?そんなことは決してないと思います。変わったのは、子供ではなく私たち大人や社会の方がかもしれません。

そして、今年も1年が終わろうとしています。皆様、1年間本当にありがとうございました。至らないことの多い私達でございますが、少しでも良い教室に成長していけるよう精進努力を重ねて参ります。

大好きなこの仕事を続けられるのは、皆様のおかげです。どうぞ、良い新年をお迎えください。



Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



関目教室 今・昔!? 進化するカイチと関目教室!

小幡 翔太郎 (関目教室)

皆さんこんにちは。最近、月日が経つのが恐ろしく早いなあと感じています。カイチを卒業したのが2007年の3月、そしてアルバイトとして入社したのが2011年の3月なので、中学卒業から丸16年、入社してからで考えても丸12年以上経っています。カイチは常に「良い変化なら、変化を恐れず変わる会社」ですので、私が関目教室にアルバイトとして配属されてから、社員となった現在に至るまで、色々変化がありました。今回は、人生の約半分を超える期間、カイチと関わってきた小幡から見た、関目教室の変化をご紹介します。



関目の元氣印、井上先生とルーキー田中先生!

①特進クラスの設定

2012年、中2・中3の集団クラスを「特進」「標準」クラスに分け、特進コースが導入されました。私が生徒の時(2004年度～2006年度)は、そもそも学習部があるのは今福教室のみで、特進標準の区別もなく、全員が同じ教室で学習していました。関目での導入当初は1クラス10人に満たない規模でしたが、現在では特進・標準合わせて各学年40名近くの生徒が在籍するクラスになっています。通塾する生徒達は、元気でタフな生徒が多く、学校に部活、塾に英検対策と、忙しい中日々頑張っています。

ちなみに、現在関目教室に在籍する非常勤の先生の多くは、関目教室特進クラスの出身です。

関目の特進クラス出身の川田先生と。こう見えて(?)英語ペラペラです!



②個別クラスの開講

今では10年目に突入している個別クラスですが、「カイチの集団に入りたけれど、少し勉強が苦手な子」や「部活や外部の習い事で忙しく、集団クラスに通塾できない子」も通えるようにと、2014年度に開講しました。映像授業と先生による指導の併用や、映像授業の会社の変更等、様々なシステム変更を経て、現在では講師による直接指導の形に落ち着いています。また、以前は「学力的に集団に足りないため、個別に通塾する」という生徒の割合が高かったのですが、最近では「学力的な問題ではなく、個別のシステムの方が合う」といった理由で個別を選ぶ生徒も増えています。

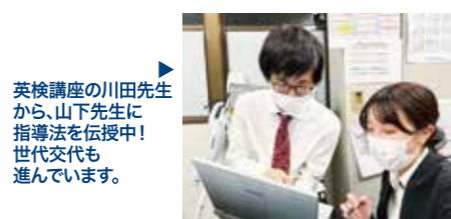
テスト前には、集団の生徒と同様、3時間自習も実施しており、参加率も高いです。集団クラスとともに、みんなで頑張っています!

③TKの設置・英検対策講座の設置

2016年度入試より、大阪府公立高校入試において、英語の「C問題」導入が始まるのに先立ち、カイチでは小学生向けの英語クラスである、「トーキングキッズ」を開講しました。以来、システムの変更や改良を重ね、現在では小学生向け英検対策クラスの「トーキングキッズ」、中学生の英検取得のための講座である「英検対策講座」として編成され、小学生から中3までの英検取得を強力にサポートするクラスとなっています。公立上位校(特に北野・天王寺・大手前・高津・四條畷をはじめとする『文理学科』設置校)を目標とする生徒が取得を目指す英検2級は、高校卒業程度の英語力が必要とされていますが、今年度の関目教室の中3生は11月時点で7名が取得しており、中2からも2級合格者が出ています。高校レベルの英語にくらいついていく生徒達の姿は、非常に頼もしく感じます。



10月のハロウィンレッスンの様子。TKはイベントも盛りだくさん!



英検講座の川田先生から、山下先生に指導法を伝授中! 世代交代も進んでいます。

④学童の設置

2022年度より、関目教室の3階に「かいち学童」が併設され、主に小学校低学年の生徒の預かりを開始しました。初年度は15名から始まりましたが、現在は25名を超える生徒が通塾しています。関目小学校・関目東小学校の低学年には小学校の門の前までお迎えがあり、珠算・トーキングキッズ・パスカルキッズの授業の際には、学童の先生が習い事の教室まで送迎しています。教室に到着したら、学校の宿題や能力開発、おやつ、等のルーティーンがあり、空き時間にはおもちゃで遊ぶこともできます(よく、めっちゃ飛び紙飛行機が飛び回っています(笑))。小学校時代にはいきいきで将棋ばかりしていた自分からすると、かなりうらやましいです。



▲長期休みには毎日違うアクティビティが行われています!

完璧!」ということではなく、教務面・生徒指導・進路指導や受験指導の場面でも、「声かけの仕方はこっちのほうが良かった」や「この場面は引いてあげた方が良かった」「優しく接するだけではなく、厳しく接してあげる場面も必要だった」等、私達も日々勉強です。これからも生徒達とともに、成長し続ける教室・講師でありたいと考えていますので、これからもよろしくお願ひいたします。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



テストのトリビア

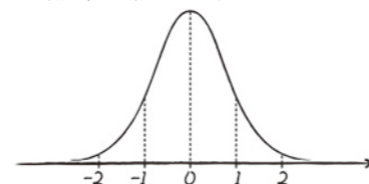
対島 広史 (カイチ予備校蒲生校・諸口校、エニグマ)

朝は四本足、昼は二本足、夕は三本足。この生き物は何?
古今東西、様々なテストが存在します。カイチに通っておられる皆様も、カイチで教えておられる先生方も、日々、テスト問題に向き合っておられると思います。

私はこれまで、受験者数十万人の大規模な模擬試験の制作、入試問題の制作、教育データの分析などを行ってきました。長らくテストに関わってきた経験から、テストに関する豆知識をご紹介します。

正しい分布は

テストを行った結果、出てくる得点の分布はどういう形になるでしょうか。一般に、統計データはサンプルが大きくなると正規分布で近似できます。



左右対称の分布ですね。真ん中が平均値なのですが、この平均値を50にして、横方向の広がりを(標準偏差と言います)を10にしたものが、ご存じのヘンサチです。

難易度のプレ(模試と入試)

模擬試験の問題と、入試問題。似ているようで似ていない、この2つ。テストですから、年によって、回によって、難しいこともあれば易いこともある。そういう「難易度のプレ」は、模試と入試でどちらが激しいでしょうか?

難易度の差が激しいのは、圧倒的に「入試問題」です。模擬試験は、難易度は相当安定しています。

模擬試験はその商品としての性質上、難易度の管理が非常に重要になります。特に幅広い生徒が受験する模擬試験の場合、「偏差値40と41の差」も、「偏差値65と66の差」も同じ問題セットで行わなければならないので、平均点管理がされていないと、商品として成り立ちません。

そのため、模擬試験では問題の制作工程の中で、多くの専門家が問題をチェックすることになります。もちろん教科的な正しさ、出題範囲のチェックも行いますが、難易度のチェックもここでかけられます。場合によってはアルバイトの人をつれてきて、問題を解かせてみたりもします。そこまでは、難易度を安定させているのです。私もかつて、上司に「平均点、0.3点くらい高めにしておいて」と言われて困ったことがあります。100点満点のテストの平均点を0.3点上げる問題を作る、まさに職人技です。

「数学の問題が難しいと、数学が得意な人は有利」は本当か
ときどき、「去年は数学が難しかったから、数学の得意な生徒が有利だった」というようなことを言う生徒がいます。これは本当でしょうか。

「数学が難ければ数学で差がつく」と思いたくなる素朴な感覚はわからなくはないのですが、これは、「ウソではないけれど本当でもない(どちらかというウソに近い)」と

いうのが正しいです。

例として、数学が極端に難しくなった場合を考えてみます。100点満点の数学のテストで、平均点が2点、トップ層でも10点という結果になったとします。このような状態は「数学の配点を10分の1にした」ということと同義になってしまいます。

つまり、数学の問題が異常に難しくなった場合、数学の点数が合否に影響する度合いは減っていき、どんな難問でも天才的に問題を解いてしまう数人だけが逆転が可能になる、ということになります。

選択科目の等化

高校入試ではほぼ気にすることはないのですが、大学入試では「選択科目の難易度の差が問題となります。高校入試では「社会」という試験ですが、大学入試だと「日本史」「世界史」「地理」などから選択して受験することになります。この時、「日本史」の問題は易しくて、「世界史」の問題は難しい、となると不公平です。そこで、大学入試では、「日本史」の78点は世界史の72点と同じとして合否を計算する」など、点数を調整する作業が行われることがあります。これを等化と言います。

この等化は、私立大学では各大学が独自の方針で行っており、完全にオープンにはなっていないことも多く、受験生を悩ませます。「合格最低点は60%でした」と言われても、得点調整の後の合格最低点だと実際には何点とたらよいかわからないからです。

伝説の入試問題

入試問題の中には、「伝説の問題」と言われ、長く語り継がれる問題もあります。大学入試から2つ紹介します。

円周率が3.05より大きいことを証明せよ。【東京大学 2003】

この手の話題で必ず出てくる問題です。この問題がおしゃべりなのは、当時、いわゆる「ゆとり教育」によって「円周率は3でいいんじゃないか」という文科省への反発が表れている点です(真偽のほどはわかりませんが)。

自然数nの関数f(n), g(n)を [京都大学 1995]

$f(n) = n$ を7で割った余り,
 $g(n) = 3f\left(\sum_{k=1}^n k^n\right)$
によって定める。
(1) すべての自然数nに対して $f(n^2) = f(n)$ を示せ。
(2) あなたの好きな自然数nを一つ決めて $g(n)$ を求めよ。
その $g(n)$ の値をこの設問(2)におけるあなたの得点とする。

これも有名な問題です。どこがすごいかというと、(2)の「好きな自然数を選んで、それを関数に入れるとそれが得点」というところ。「そんななんめっちゃ点数高くなるように数選べばいいじゃん」と思うのですが、これを考えるのがなかなか大変。こうきたか、という問題です。

素材文の著作権

国語、英語のテストでは、素材文(問題文)を選ぶ必要があります。文章は通常、作家の方が著作権を持っておられるので、著作権処理(使用料を支払うこと)を行わなければならない点です。

模擬試験で文章を使うときは、制作途中で著作権処理をするのが一般的です。これに対して、入試問題では著作権処理は試験実施後になります。試験実施前に行くと「来年は●●大では、■■■■という作家の文章が出るらしいぞ」とばれてしまうからです。

著作権は完全に作家の方の権利であるため、この入試の後がやっかいです。赤本などの過去問問題集について、作家の方が「使ってほしくない」と言えば使えませんが、これは過去問演習をしたい受験生にとっては、本当に悩ましいことです。個人的には、今の著作権保護は、著作権者によりすぎているのではないかと感じています。



禁忌問題

医師国家試験(医学部の学生が受ける、お医者さんになるための試験です)など、一部の国家試験で禁忌問題とよばれる問題が出ます。これは、「全体の得点がいかにか高くても、この問題を間違っていたら不合格にする」という問題です。

なぜこのような問題を含んでいるかというと、医者、薬剤師などは人の命を預かる職業だからです。「この問題を間違える人は、人の生死を分ける場面間違った選択しかねない」ということです。

終わりに

テストに関して色々記述しました。色々な学校に訪問すると、「アセスメント(テストのこと)の専門家として、受験生に何かアドバイスをして下さい」と言われることがあります。いつも、下記のことを言っています。

- 【受験生へのアドバイス】
- 入試問題の難易度に振り回されないこと
- 入試問題の難易度は、模擬試験よりぶれる。
- 難しい時は全員にとって難しい、
- 易しい時は全員にとって易しい。
- 受験会場では終わった科目のことは考えない。
- 次の科目のことだけ考える。

受験生の皆様、頑張っていきましょう!